

### CONTENTS

同窓会の活動	1	同窓会より	3
学園の近況	2	平成15年度同窓会会計報告	4

## 同窓会の活動

### ◆ 新同窓会名簿完成

同窓会では学園創立70周年に向けて同窓生名簿を自主発行する計画を立案し、実行に移して来ました。計画から5年の準備期間と約1100万円の予算を計上して、2004年1月末に完成致しました。

御希望いただいた皆様への発送は3月末より、また学園事務局での発売は4月の新学期の始まりと同時に終わりました。

今回の名簿は現同窓会が発行する4代目のものですが、名簿製作にあたってのコンセプトは、

- 1) 会員の皆様から協力いただきプールして来た資金を名簿という形で購入いただく会員に還元する。
- 2) 名簿製作はその全てを同窓生のボランティアで行う。
- 3) 同窓生のネットワークと協力により、これまで不明だった方々の名簿への復帰を目指し、1万人の名簿を完成する。
- 4) 見ても読んでも楽しめる、また空白部分の少ない見易い名簿を作る。
- 5) 個人情報である名簿の悪用を防ぐため、あらかじめ名簿の記載事項について会員全員にアンケートによる確認作業を行い、さらに申し込みいただいた御本人である事を確認の上、販売する方式を採りました。
- 6) 予算は10年前(学園との協賛による卒業生名簿)の50パーセント以下を目標にして進めて来ました。

今回の同窓生名簿完成にあたって、5年間の長期に亘り様々な形でボランティア活動に協力いただいた同窓生の皆様、学園の先生方、事務室の皆様方本当に有り難うございました。

おかげさまで計画通りの成果を得る事が出来ました。特に予算面では10年前の45パーセントを下回る事が出来ました。これも偏にボランティアの力の賜物と心から感謝しております。

購入いただいた方々からも名簿の評価は好評です。やりがいのある仕事が出来た事に我々一同も大変喜んでおります。

前述のように販売に際しては、会員相互のセキュリティーの問題を考え、ハガキによる購入希望を取りました。その後、会報SEA SIDEに4500円の名簿代金用振り込み用紙を同封し、この振り込み用紙にて代金を振り込んでいただいた方に名簿をお届けしております。また学園事務局での販売にあたっては、窓口にて同窓生である事を確認させていただき、4500円にて販売しております。

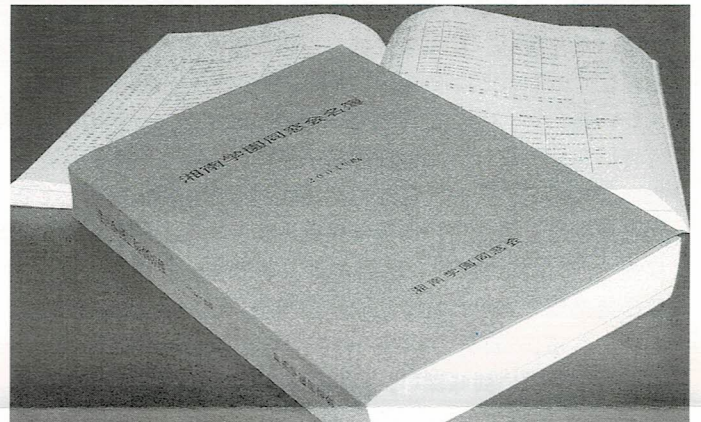
#### これから名簿を購入される会員の方々へのお願い

まだ購入を希望される方も多くいらっしゃると思います。前述の二通りの方法のいずれかにより御購入下さい。

今回の会報にも名簿購入用の4500円の振り込み用紙を同封致します。この用紙にてご入金をいただき、入金確認後に名簿を発送致します。年会費とは別口座です。年会費2000円は同封の年会費用の振り込み用紙にて、お振り込み下さい。同封振り込み用紙をご使用いただければ、振り込み手数料は同窓会負担です。会費納入時のクリップボードに名簿へのご意見ご感想等もお書き添え下さい。今後の参考にさせていただきます。

#### 名簿予約をいただいた方で代金未納の方へのお願い

前同名簿予約申込みをいただいた方で、代金4500円の入金されていない方が100人以上おられます。この方々には同窓会事務局から入金のお願いのハガキが届いていると思いますが、代金未納のため発送ができません。今回同封の振り込み用紙をご使用の上、是非御入金下さい。入金が確認でき次第、名簿を発送させていただきます。



### ◆ お知らせ《田端会長退任》

去る9月25日(土)の定例常任幹事会において、田端恭蔵会長から「任期途中ではあるが、一身上の都合により会長職を辞任したい」とのお申し入れがありました。当日の常任幹事会でこの件が承認され、会長職は田端前会長の任期である2005年3月末日までを空席とし、その間出羽副会長が会長職を代行いたします。

田端前会長におかれては、初代の同窓会創設に始まり、長年に亘る現同窓会会長の重責と数々の同窓会行事の開催、さらに4回に及ぶ同窓会名簿の発行等多くの功績を残され、同窓会にとっては、何びとにも代え難い人材でありました。本当に御苦労さまでした。一同心より感謝申し上げます。今後も更なる御指導をお願い申し上げます。

尚、次回発行の同窓会報SEA SIDE Vol.13にて新体制を紹介させていただき、新会長の抱負等も掲載する予定です。



## ◆ 新学園長 藤岡貞彦先生インタビュー



### \* 赴任された印象は

中央線国立にある一橋大学に、横浜の自宅から30年近く通っていた。美しい環境の国立駅前。学園のある鶴沼松が岡や桜が岡周辺も、道のとおり方や広さは違うが、それと似た印象。環境はすばらしく、親しみももてる。校舎も新しく、7月にグランドもできた。幼稚園も塗り替えられた。だんだん新しいつつわが出来てきた。園長室からの景観も良い。180度見渡せ、司令塔に立ってるような気がする。とても良い環境だ。70年誌の冒頭に学園を「青い鳥の棲む一つの村に」と書いた(注1)。これは「青い鳥」がかつては居た。しかし今は居ない。「一つの村」になっていない。ということを皮肉をこめて書いている。甘いことを言えばいくらでも言えるが、就任早々そんな「めでたしめでたし」ということは言いたくない。皮肉や風刺をこめた私の本当の気持ちだ。批判しているのではない。そうしようと言ってる。

### \* 「青い鳥」「一つの村」それはどういう意味か、具体的には。

「青い鳥」つまり、高い理想をかかげている人が多かった。特に初代、三代、四代目園長が英傑だった。初代は言わずと知れた小原先生、三代目は学園歌の宮下先生。四代目は大久保先生。「学園の四季」は名著だ。この三人は理想に燃え、常に発信していた。教育には夢、理想、がないとつまらないものになる。(自分の)専門は教育学。教育学的に観ると湘南学園は非常に興味深い。幼稚園～高校まで18歳と3歳の子どもが一緒に居るこじんまりとした学校。「一つの村」たりうる条件は揃っている。Village or Committee だ。そこに「青い鳥」をとまらせたい。初代、三代、四代の各園長は「青い鳥」といえる。理想に燃えていたと思う。小さいから団結(=一つの村)出来て、そこに「青い鳥」がとまっていた。今はそうになっていないということだ。

### \* 新園長としての抱負は

五代目以降が悪いと言っているわけではない。宗先生の唱えた「根」も「青い鳥」といえるだろうが、時勢もある。私の主張は現状批判が目的ではない。「青い鳥」を呼び戻し、「一つの村」にしたいということ。受験への対応と人間らしい学習の両立は難しい。至難の業だが「やらねばならない」、これが抱負の全て。古いものを復活させること、大学受験とはちょっと矛盾するようにみえるこの両立について校長と毎日考えを練っている。これをやらなければ第8代学園長になった意味がないからだ。

### \* 具体策は

考えは沢山あるが、就任半年ではまだ出来てはいない。しかし教育学者としての手の内はある。ひとつは調査。歴史の調査と現状分析。弱点はどこにあるのかを見つけ出す。そこを切れば血も出るだろう。まずは、教師の意識改革が重要と考える。会社と同じだ。社長だけが叫んでもどうにもならない。大学受験よりも、もっと遠くを見よと。大学を出てからが本格的学習だ。大学なんて「何でもないものだ」とそうさせたい。大学を卒業してからが本当の勝負だ。今、大学教師の地位は下がってきている。これはむしろ良いことだ。

私は、生涯学習の研究をしていた。受験を前にした生徒諸君に「大学って大したもんじゃない」とは言わないが、大学は手段と思って欲しい。大学に入ること自体を目標にしていると「大学を出た時になにをするか」という大事な目標を失ってしまう。大切なのは生涯学習だと考えている。湘南学園の相手とすべきはその辺の受験上位校ではない。

学園長として何度でも言いたいのは「この学園をつくった理念を思い出せ」という一句である。自分の在任期間中言いつづけたい。(園長室の色紙を示し)これが私のスローガンだ。

「公論傾聴和気満堂」。特に学園内の和気を重視したい。

「和気藹々の和気」こそが狙いだ。幼稚園～高校まで、約1800人の児童生徒と200人の教職員がいる。まだその一貫システムを活かしていない。今はむしろ後退してしまっている。しかし、ポテンシャルは充分ある。「いい高校に入れさせるのがいい中学」、「いい大学に入れさせるのがいい高校」と100人が100人そう言うと思う。教育学者としての私のモノサシは違う「自分の子どもや孫を入れたいと思うかどうか」。横浜のフェリスは好例だ。学園にも本来そういう家族が多いのではないか。同窓会名簿を見ると同姓の同窓生が多く目に付く。いい学校とは親や祖父母が「そこに入れたい」と思う学校なのだ。さらにその上がある、卒業生が「その学校の教壇に立ちたいと思う」かどうかだ。鮭が還流してかえって来るような構造をもった学園。湘南ファンが固まるのも良し悪し、異質のものが入るのも学園にとって大切だ。「自分が出た学校に子供を入れたい」と思う。それが村だ。

### \* 同窓会に期待すること

私の部屋に、何時皆さんが来ていただいても構わない。この学園は孤立閉鎖的だ。

学園長や校長をたずねていらっしやい。行事にもどんどん参加してほしい。この学園の目玉のひとつは特別教育活動だ。世の中で言う産学共同は今ももう終わっている。今は「大学」ではなく「高校」だ。企業のインターンシップはむしろ中学・高校でこそ必要だと思う。今年の入試では湘南学園は理科系が良かった。理系に強い学校は意外に少ないので目立った。特別教育活動の場に同窓生を迎え、プレゼンテーションできるようにするなど、実社会との結びつきを良くしていきたい。産業界にも学園の実情を知ってもらいたい。同窓会を通じ、カリキュラム改造と連動した実行方法を考えていきたい。

◇注1:「学園を青い鳥の棲む一つの村に」70周年誌より。

☆4月着任以来『ルネサンス』、「青い鳥を呼び戻そう」を提唱している。



☆大久保満彦著『学園の四季』には「平和と福祉の教育」という副題が添えられている。たとえばこれが一羽の青い鳥だ。

☆かつてこの学園は「父母と教師で作る学校」を標榜し、誇りとしていた。これも「青い鳥」。今わずかに、活発なPTA活動にその伝統が残っている。

☆在校生3人ではじまったこの学園には、当然「一人ひとり

を大切に作る学校」というイメージが確固としてあった。

☆だからこそ、父母保護者は安心して子ども・青年の教育をゆだねたのに違いない。「品位ある市民を育てよう」という願いも学校管理者にまっすぐ通じていたはずだ。

☆清冽な教育への願望と期待の中に、はじめて「青い鳥」は棲息できる。

☆トップダウンの「学校化社会」がかたまと、「青い鳥」は去ってしまう。

☆この学園の歴史のなかにある「大切なもの」をじっとみつめる。それだけで教師の意識はかわりはじめる。このプロセスこそが学校改革の本丸。

☆学校改革の根幹は意識改革につきる。

☆幼・小・中高が各パートにわかれ、その「接続」の合意づくりが難航している今日の学園であればこそ、新学園長として湘南学園を「青い鳥の棲む一つの村に」と、ルネッサンスを高唱するのだ。

#### 《ご参考までに》園長就任時の「学園長所信表明」より抜粋

☆建学の精神「個性豊かにして身体健全。気品高く、社会の進歩に貢献できる明朗有為な実力のある人間形成」の5項目。なかでも「気品高く」に注目。「教育の目標は、良識ある市民を育成するところにある」との教育目標論の内実が浮かび上がってくる。

☆園長、校長など管理職こそがより高い使命感と責任を自覚し、教職員が安心して教育にたずさわることの出来るよう全力傾注する。

☆学園70年の歴史と伝統が著しく光彩を失ってきた。

☆『授業の完全な父母への公開』・『点数だけで退学させるシステム』・『推薦制の透明度』・『学園財政の透明性』を緊急解決するよう託された。

☆当面の最重要事項として、『争論から論争へ』・『論争から対話へ』・『対話から合議形成へ』のプロセスを学園構成員全体の努力でつくりあげていく。スクールデモクラシーと呼ぼう。学園長室開放はそのための小さなころみ。

☆そのためには『傾聴』と『研修』が大切。

☆障害をもつひとりの子どもを1800人が見守る一つの村。これが私のビジョンだ。

#### 【インタビューを終えて】

初めてお会いした藤岡新園長は、気さくで実にエネルギーな方でした。就任後まだ半年ということで、ビジョンを実行するための具体策は今後期待するとして、そのお話の中には「全く同感」とおおきくうなずく場面が多々ありました。

短期間に、学園の歴史をよく研究しておられます。我々も改めて学園の本来持っている良さを考えさせられました。また現在の教育システムは、学園のみならず、日本の教育現場の大きな問題だと思えます。学園が本来持っている良いところが活かされれば、それに一石を投じられ、学園の存在価値が出てくるのではないのでしょうか。確かに、課題は山積しているでしょう。

しかし、新園長は、切れば血が出ることも覚悟していると語っておられます。その言葉に「本気」を感じました。悪い血は流し、新しい活力ある血と、古いけれど良い血を呼び戻す。そして「コミュニケーション重視」。これは基本であり、最も大切。大賛成です。新園長のこれからの手腕と実行力を大いに期待し、同窓会としても応援したいと考えます。

予定のインタビュー時間はあっという間に終わりましたが、すっきりした気持ちで園長室をあとにすることが出来ました。

同窓会としても、お言葉に甘え、オープンな園長室におじゃまさせていただきますと考えています。

#### 『藤岡貞彦園長略歴』

1935年 東京都出身

東京大学教育学部卒業。一橋大学教授。同社会学部長。帝京平成大学教授を経て、

2004年4月 本学第8代園長に就任。教育社会学者として主に環境教育論、生涯学習論を講じた。著書に「教育の計画化」「社会教育実践と民衆意識」「教育を人間の場に」等がある。横浜市在住。

◆インタビュー：2004年9月18日（土） 10：00～11：30

湘南学園3階園長室にて

インタビューアー：田端、日根野、出羽

#### ◆ 中学高等学校校舎落成記念式典

湘南学園創立70周年を記念した中学高校新校舎建築工事が今年の7月をもって終了となりました。中高校舎のクラスエリア・メディアエリア・テクノエリア、幼稚園から高校まですべての学校で使用するグラウンドの改修工事、アリーナ棟の完成まで、3年に及ぶ大事業でした。

学園ではこの完成を祝い11月15日にパートごとに記念式典が開催されました。以下、それぞれの式典をご紹介します。

##### ＜幼稚園＞中高探検ツアー

アリーナで踊ったり、かけっこをしたり、舞台上で歌ったりする。ブリッジからの景観を楽しみ、グラウンドを散歩したりする。

##### ＜小学校＞アリーナでの式典

学園長・校長のお話、短編映画鑑賞、施設の使用説明

##### ＜中 高＞アリーナでの式典

吹奏楽部によるオープニング曲・学園歌演奏（高校H3年度卒業生の徳永洋明氏によりアレンジされました）、学園長・校長・生徒代表挨拶、PTA主催による「教育文化事業」の開催

##### ＜法 人＞アリーナで来賓をお迎えしての式典及び記念祝賀会

来賓：県内教育関係及び私立中学高校校長・建築関係業者・教職員OB・藤沢市市長はじめ各関係者・松友会代表等

吹奏楽部によるオープニング曲・学園歌演奏、理事長・学園長・来賓代表挨拶、卒業生代表として平尾昌晃氏（中学S27年度卒業）挨拶及び平尾氏作曲の記念歌「夢に向かって」の披露（指揮・平尾氏、歌・合唱部）、施設案内

当初、学内では幼稚園から高校まで一堂に会しての式典を模索したようですが、各校の行事予定等の兼ね合いにより、残念ながらパート毎の式典開催となったようです。

同窓生にとっては、懐かしい学舎がなくなり寂しいと思う反面、こんな校舎で過ごしたかったと羨ましく思うような出来栄えだと思えます。皆様も鶴沼周辺に訪れた際には足をのばしてみたいかがでしょうか。外観だけでも一見の価値あります。



# SEASIDE 041220 VOL.12

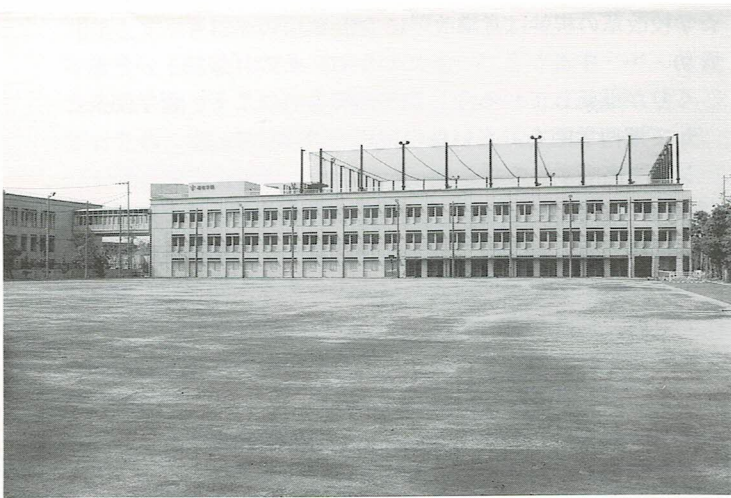
2004年12月20日発行  
発行 湘南学園同窓会本部事務局  
〒251-0038 藤沢市鶴沼松ヶ岡4-1-32  
TEL.0466-23-6611  
FAX.0466-29-3669  
印刷 こまぶりと

## ◆ 中高新校舎紹介

2004年7月、約3年間の長期にわたる工事を全て終えて、湘南学園中高校舎が完成致しました。

今回リニューアルされたのは中高校舎と体育館・事務所のアリーナ棟、それにグラウンドです。現在では工事中の不自由さもなくなり、生徒諸君は伸び伸びと勉学に励んでいる事と思います。同窓会でも微力ながら学園に協力させていただき、また、新校舎建築のための同窓生有志による寄付も多額にのぼる金額になったと学園より報告を受けております。学園の事を心から思い考えて頂いている有志の皆様、御協力有り難うございました。有効に活用していただける事を切に願います。

前記のように、先日インタビューに快く対応頂いた藤岡園長もオープンな学園と生涯教育をモットーにルネサンスを行なおうと頑張っておられ、OB・OGの方々にも園長室のドアを常に開放して待っているの、是非顔を出して下さいと話されています。もちろん、思い出の中にあるあの懐かしい校舎はもう存在していませんし、また、教鞭を取られていた先生方もすでに定年を迎えていらっしゃるかもしれません。しかし、同窓生が学園時代に育んだ仲間達や先生方との思い出はいつまでも心の中に生き続け、いつの日か哀愁となって思いを馳せる事でしょう。現代の変化激しい世の中であって、一瞬の昔を見つげに立ち寄られてはいかがでしょうか！



## 同窓会より

### ◆ 【年会費納入のお願い】

皆様の年会費により運営されている同窓会ですが、年々年会費の納入が減少して来ております。

今後も年会費の納入口数が減少し続ける様であれば、会の運

営が困難になる可能性も出て参ります。景気回復の遅れる中心苦しいお願いですが、何卒その点を御理解いただき会員の皆様の年会費2000円の御納入をお願い致します。我々もボランティアとして一層努力致し運営管理の方でも頑張ります。

## 平成15年度同窓会会計報告

◆平成15年度（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

収入の部		支出の部		備考
科目		科目		
前期繰越	14,156,423	会報印刷	1,582,823	会報印刷
入会金15年度	1,017,000	名簿関係	3,505,670	名簿作成
入会金14年度	1,014,000	通信費	1,140,697	会報発送等
年会費	1,046,000	交際費	59,275	中元・歳暮・祝い金・香典
名簿代	887,000	寄付	350,000	生徒会へ学園祭援助学園記念コンサート協賛
受取利息	1,658	事務用品	103,043	会報宛名ラベル他
		仮払い	60,000	清算は平成16年度実行
		今期支出計	6,801,508	
今期収入計	3,965,658	次期繰越	11,320,573	
収入合計	18,122,081	支出合計	18,122,081	

●平成16年3月度の新会員は（高169人、他1人）170人でした。